

外来種 ツヤハダゴマダラカミキリに ご注意ください！

2002年国内初記録で2004年には発生が終息したと考えられていたツヤハダゴマダラカミキリ *Anoplophora glabripennis* 英名:Asian long-horned beetleが、2020～2021年にかけて宮城県から山口県にいたる8つの県で再発見され、被害が拡大しています。

園内に侵入していないか、一度樹木をご確認下さい。

- ・中国東部から朝鮮半島中部に分布。
- ・街路樹や果樹を含む非常に多くの樹種を食害します。
- ・国際自然保護連合「世界の侵略的外来種ワースト100」の1種です。
- ・日本在来の ゴマダラカミキリ *A. malasiaca* に酷似しています。

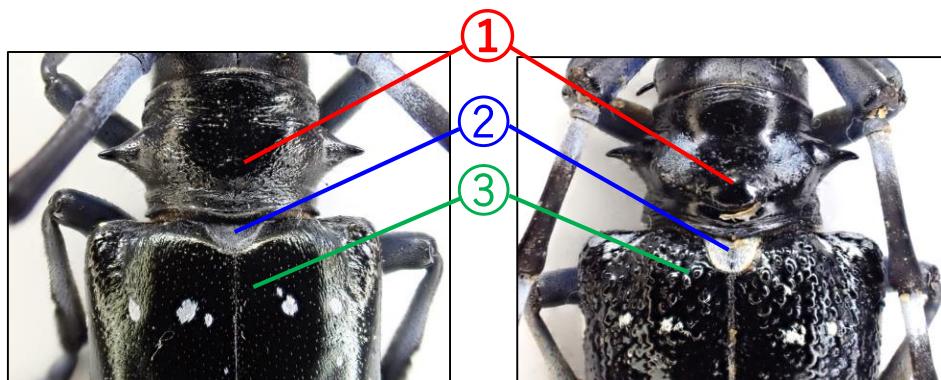


どちらも
体長は
25～40 mm



ツヤハダゴマダラカミキリ

ゴマダラカミキリ(在来種)

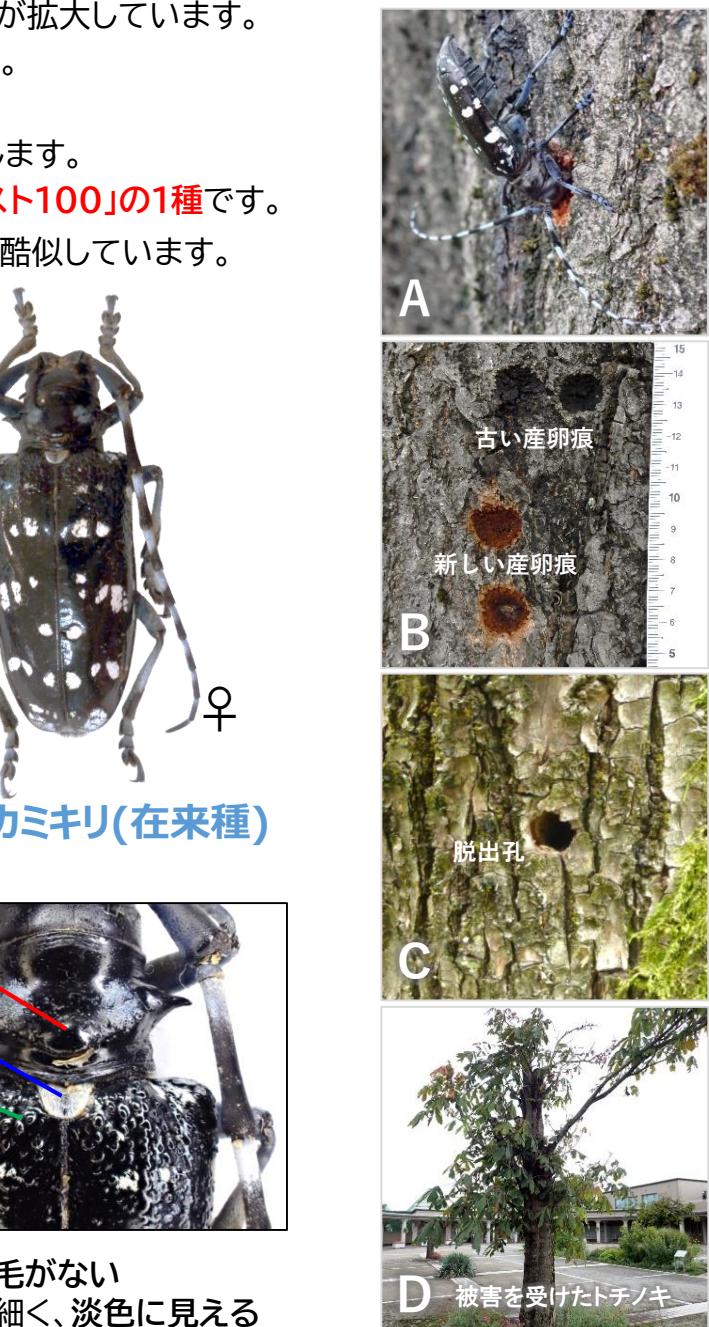


見分け方

ツヤハダゴマダラカミキリは
①首の部分の背側の突起と毛がない
②羽の付け根中央部の毛が細く、淡色に見える
③羽の上面基部にイボ状の模様が無くなめらか

これまでに報告のある被害樹種

ムクゲ、カエデ属、カツラ、トチノキ属、カバノキ属、
ハコヤナギ属(ポプラ)、ヤナギ属、ハンノキ属、
ネムノキ属、ニレ属、グミ属、センダン属、クワ属、
スズカケノキ属(プラタナス)、リンゴ属、サクラ属、
ナシ属、ナナカマド属



●成虫は5～10月頃に出現し、寄主植物の樹幹などを食害して穴を開け(写真A)、その窪みに産卵します(写真B)。孵化した幼虫は秋から冬に樹の内部を食樹して、心材部で越冬します。成虫が羽化すると、直径1cm程度の脱出孔を開けて、樹木から脱出します(写真C)。継続的に被害を受けることで、寄主の樹は衰弱していきます(写真D)。

●対策などの詳細は、早瀬・桐山(2022)の速報レポート(富山県中央植物園研究報告27: 71-84)をご参照下さい。

園内外でツヤハダゴマダラカミキリを確認されたら、下記宛ご一報いただけますと幸いです。

(公社)日本植物園協会 植物多様性保全委員会 外来種対策分科会座長

中田政司 (富山県中央植物園長) E-mail nakata@bgtym.org

©日本植物園協会・早瀬裕也・桐山 哲 2022